



持続的な、
社会と世界を。

選考採用業務説明会

2026年8月

農林水産省
北海道農政事務所

- 北海道農政事務所は農林水産省の地方機関であり、**北海道を管轄**しています。
- 農林水産省では**職務経験者の採用を積極的に実施し、国家公務員一般職（係長級）相当の正職員として採用**しています。
北海道農政事務所でも約50名の選考採用者が活躍しています。
- 今年度は、農林水産省選考採用及び
人事院経験者採用試験（係長級(事務)）から
採用を予定しています。

- 今年度の選考採用は、7月31日～10月13日に募集しており、書類審査（履歴書、小論文等）、人物試験（面接等）により選考しています。
- 選考採用は、事務系と技術系に採用が分かれています。
事務系と技術系の併願はできませんので、
どちらか一方を選択して応募してください。

【主な応募資格】

- ・大学、短期大学、高等専門学校若しくは高等学校を卒業した者及びこれらと同等以上の学力を有すると認められる者
 - ・一定の職務経験を有する者（大学を卒業した者は7年以上等）
- ※詳細は応募要領をご確認お願いします。

- 農林水産省は、食料の安定供給、農林水産業・食品産業の発展、食の安全確保、農林水産物・食品の輸出促進など幅広い政策を担っており、「食」と「環境」を核として、幅広いフィールドで活躍できます。
- 選考採用者の職歴は様々であり、公務員のほか、小売・卸売、教育、旅行、サービス、不動産、農林水産などの様々な業種から転職しています。
- 農業、公務関係の経験が全くない方も採用しており、何らかの形で前職経験を活かせる職場です。

お伝えしたいポイント④

- 基本的な転勤範囲は、事務系は北海道内（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）、技術系は札幌又は本省（霞が関）です。
なお、事務系の採用でも能力や希望に応じて本省等に勤務できる可能性もあります。
- おおむね2年程度で様々なポストを経験していただきながら、将来的に、自分にあった分野のスペシャリストや、幅広い知識を持ったゼネラリストになっていただきます。
- 残業は比較的少なく、休暇も取りやすい職場のため、プライベートの時間が確保できます。
- 育児、介護等との両立が必要となった際には、時差出勤、短時間勤務、育児休業、介護休業等が可能であり、職員が働きやすい職場を目指しています。



CONTENTS

本日はお話しすること

01

農林水産省のミッション

02

北海道農政事務所の職場環境

農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

「食」と「環境」を未来に継承するために

MISSION

「食」

・食料安全保障の確保

「環境」

・多面的機能の発揮
例) 自然環境、国土保全、
コミュニティ形成、文化等々

産業

農林水産業の持続的な発展

輸出

国際
交渉

金融

・農地・担い手の確保・農業構造の確立
・生産性・付加価値向上
・環境負荷低減

環境

技術
開発

安全
衛生

TOOLS

地域

農山漁村の振興

地方
創生

観光

・地域社会の維持
・生産条件及び生活環境の整備

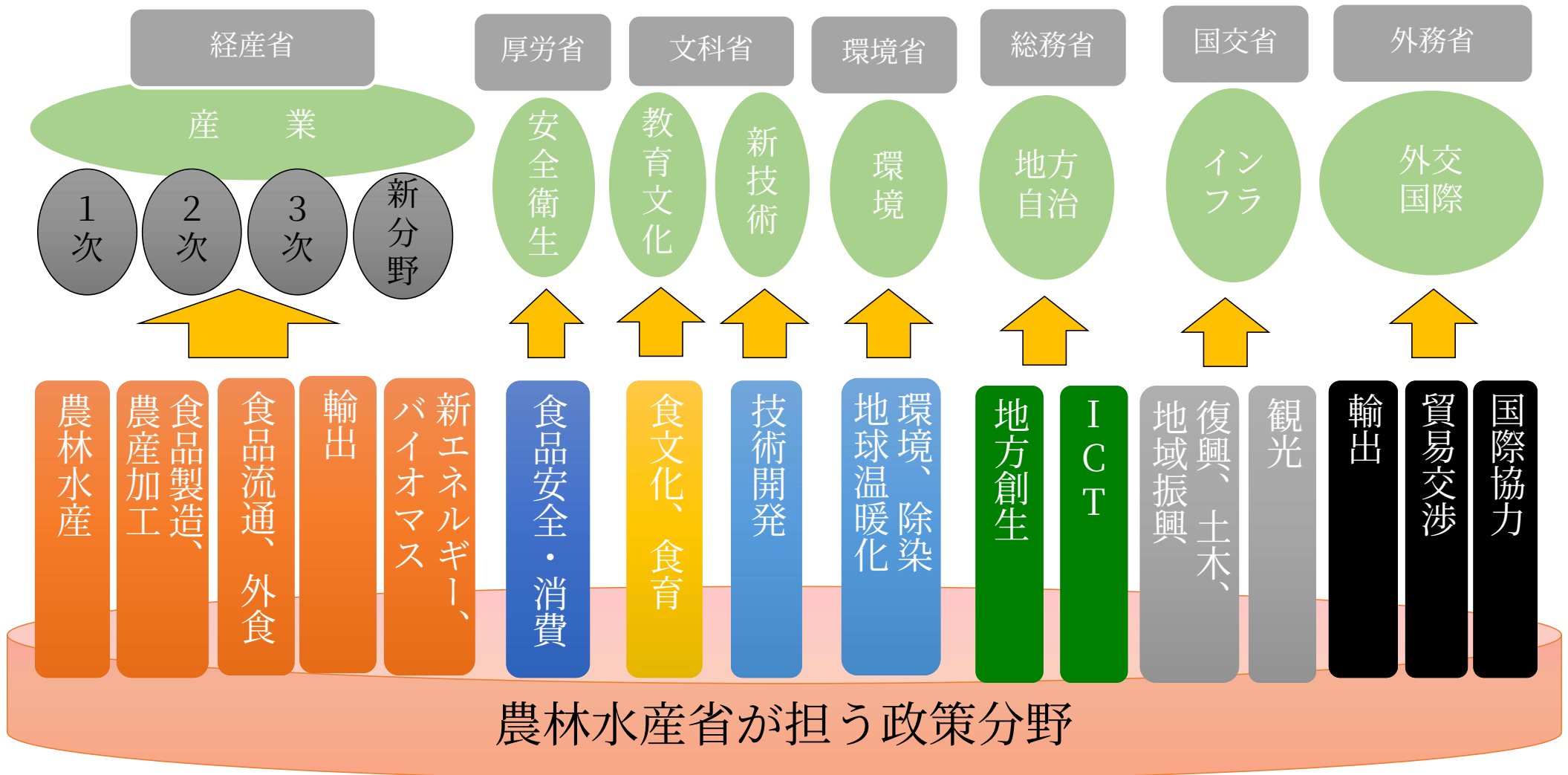
教育

文化

インフラ

農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「**総合政策官庁**」と呼ばれています。



「食」や「農」を取り巻く様々な課題をどうすれば解消できるのか？
農業の成長産業化のため、どのような仕掛けが必要か？

政策の企画・立案（主に本省）

- ・課題の設定
- ・基本的な方針の作成

- ・政策手法の検討
（法令、事業等）

- ・政府内、外部との調整
- ・法令作成、予算の確保

政策の実行（主に地方農政局）

- ・政策の現場への周知
- ・法令、事業等の執行
（交付、検査等）

- ・政策情報の収集
- ・現場の問題点の把握

北海道農政事務所の組織

北海道農政事務所

企画調整室

- ・ 各種政策の推進・調整・広報、防災対策の事務等

総務管理官

総務課 会計課

- ・ 文書管理、個人情報保護、職員の福利厚生、人事等
- ・ 予算の執行、支出の決定、物品の管理、売買等の契約、営繕及び庁舎内の管理

生産経営産業部

生産支援課

業務管理課

担い手育成課

事業支援課

持続的食料システム 戦略推進官

輸出対策推進官

- ・ 地域農業生産の振興、酪農・畜産の振興、米穀の需給・価格の安定等
- ・ 政府米の管理、農産物検査
- ・ 経営所得安定対策の推進及び交付金の支出・決定
- ・ 農林水産物・食品の輸出対策、再生可能エネルギー、バイオマスその他の資源の有効な利用の確保

消費・安全部

消費生活課

米穀流通・食品表示監視課

農産安全管理課

畜水産安全管理課

- ・ 食の安全に関する情報の受発信
- ・ 米の適正な流通に向けた監視
- ・ 農産物の安全性確保、農薬・肥料の適正使用
- ・ 牛トレーサビリティ制度や畜水産物の安全性などの確保

統計部

調整課

統計企画課

経営・構造統計課

生産流通消費統計課

- ・ 統計の広報及び普及
- ・ 統計データの加工・分析、結果等の提供
- ・ 農林漁業の経営・構造の実態把握
- ・ 農林水産物の生産・流通・加工・消費の実態把握

地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）

～生産現場を支える（農産物）～

- 農産物の生産の振興
- 農業技術の普及
- 良質・低廉な農業生産資材（機械・肥料等）の供給と効率利用
- 環境保全型農業の推進
- GAP（農業生産工程管理）の普及

GAPの普及



農産物の生産振興



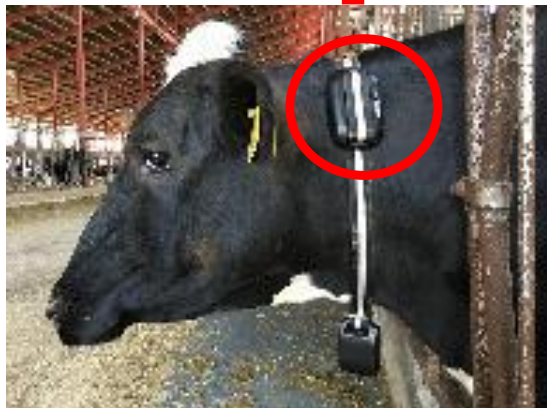
～生産現場を支える（畜産物）～

- 畜産物の生産の振興
- 生産技術の普及
- 環境問題（家畜の糞尿など）の改善
- GAP（農業生産工程管理）の普及
- 飼料供給の確保
- 競馬の運営の指導監督

技術の普及



発情を自動で通知



畜産物の生産振興



競馬



～食のマーケットを広げる～

- 農産物等の輸出拡大
- 食文化の発信
- 知財の保護・活用、規格・認証 (JAS、HACCP) の戦略的活用
- 二国間経済外交等による輸出入環境整備
- 海外開発協力

輸出の促進



経済外交



知的財産の保護・活用



食文化の発信



～次世代を育てる～

- 新規就農対策
- 担い手への農地集積・集約化
- 担い手に対する金融・税制支援
- 収入保険・農業共済

新規就農対策
(後継者育成)



担い手育成
(女性農業者の活躍推進)



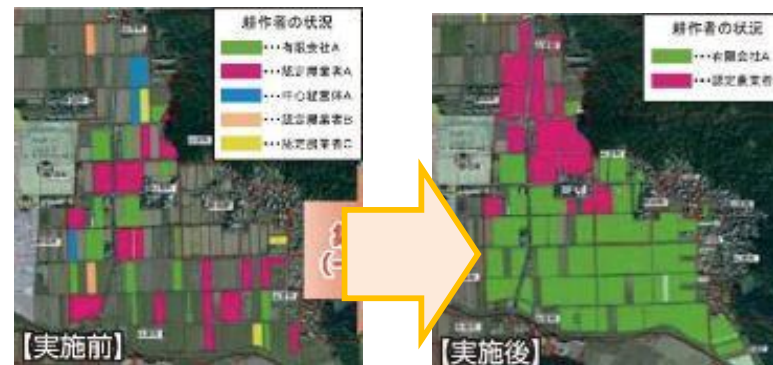
収入保険



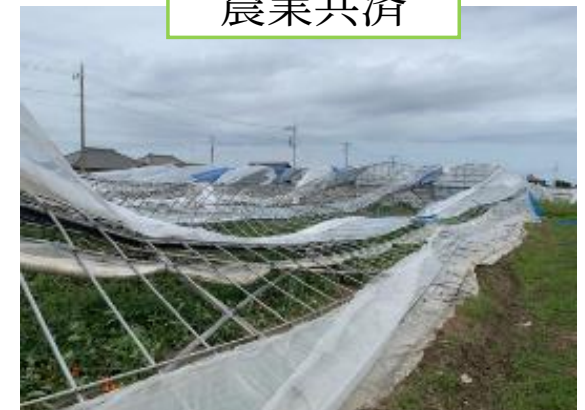
新規就農対策
(農業教育)



農地の集積・集約化



農業共済



～食の安全を守る～

- 食品の安全性向上
- 植物・動物防疫対策
- 食品表示の適正化
- 食育

食品の安全性向上



Codex委員会



植物・動物防疫

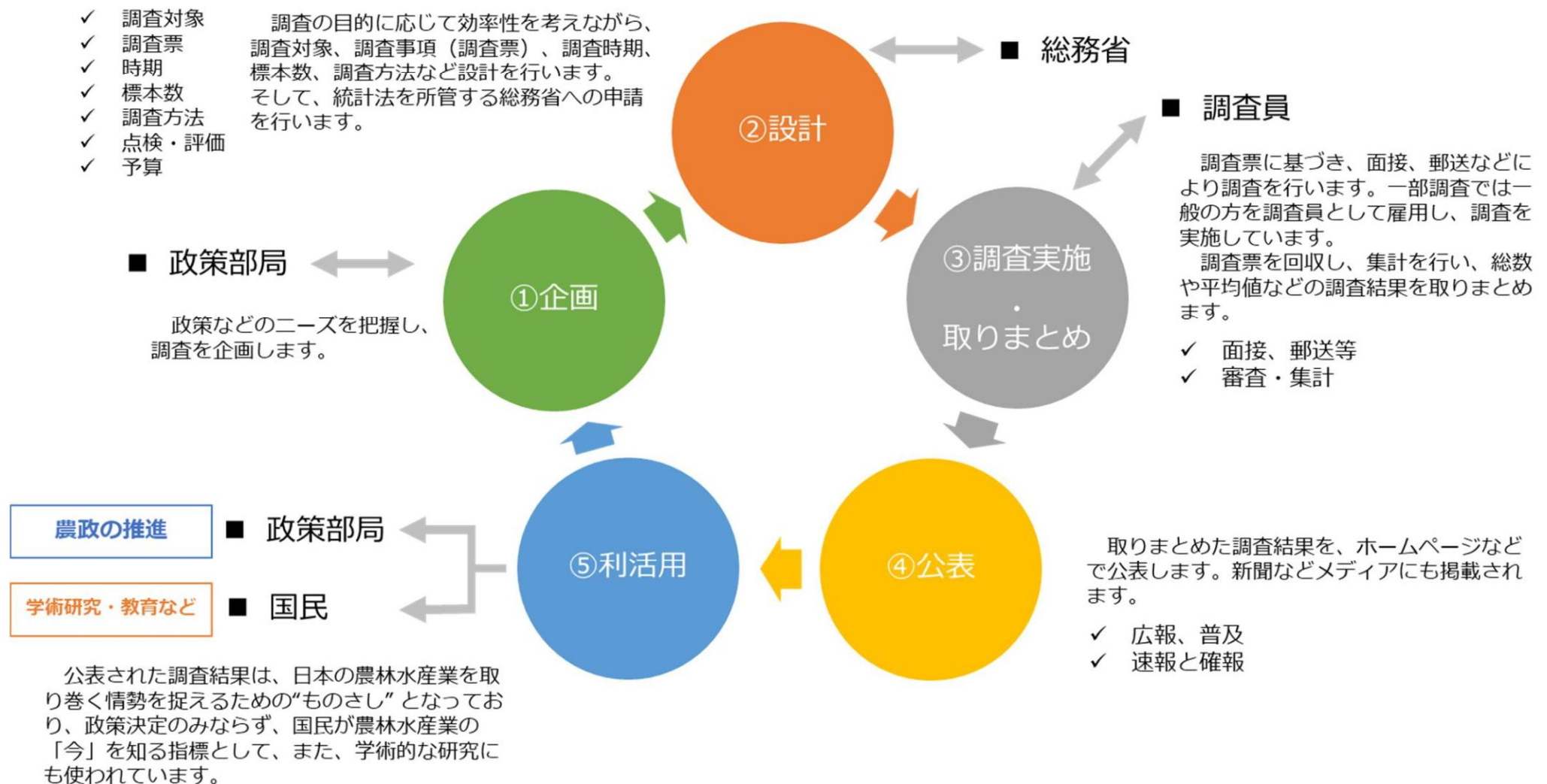


食育の推進



～農林水産統計ができるまで～

統計部では、農業経営統計調査、作物統計調査、農林業センサスなど公的統計の中核となる特に重要な統計調査（基幹統計調査）を7調査実施しているほか、6次産業化総合調査などの一般統計調査を実施しています。



～統計データに基づく分析により地域レベルの施策の普及・推進を支援～

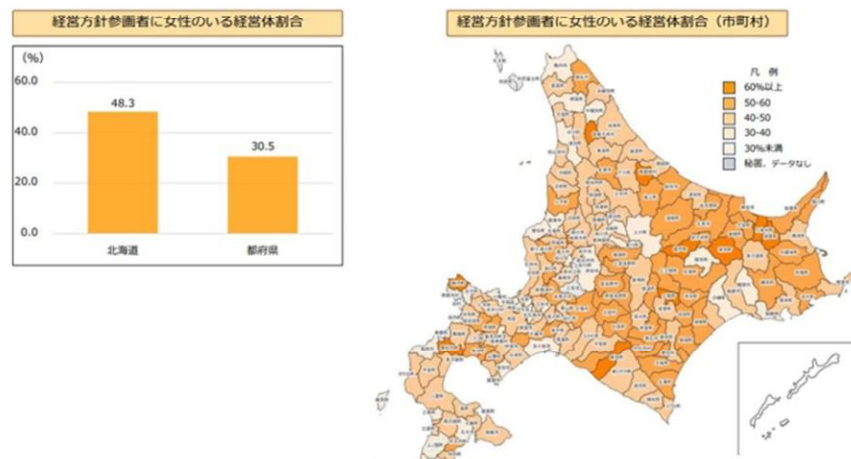
○ 統計データの利活用・分析の取り組み

北海道農政事務所統計部では、各課の職員が参加する部内横断的な「分析プロジェクトチーム」を設置し、所内施策担当部署と協力しながら統計データの分析を行い、地域レベルの施策の普及・推進、課題解決を支援しています。

○ 各種統計データを活用した分析の取り組み事例

(事例①) 農業分野における女性の参画現状 (北海道)

北海道での農業関連組織の女性登用や農業分野における女性の参画状況を、直感的に把握できるよう可視化を行いました。

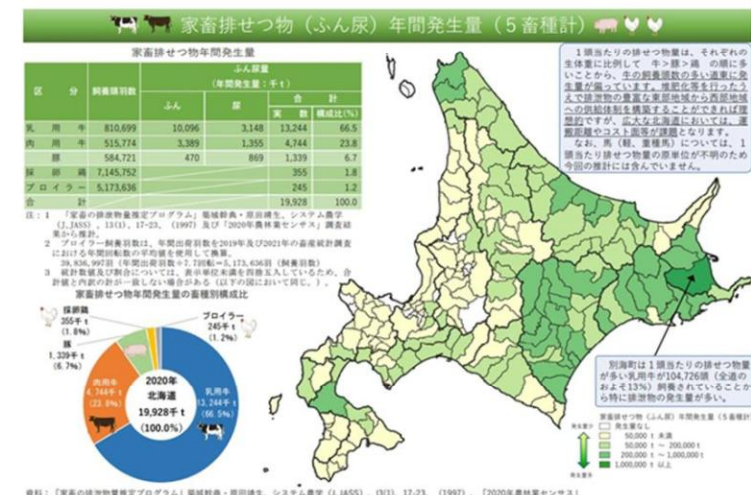


資料: 2020農林業センサスを基に作成
(女性の経営方針参画者がいる個人経営体+世帯員、役員、構成員に女性がいる団体経営体) / (個人経営体+団体経営体)

経営方針参画者に女性のいる経営体割合 (市町村)

(事例②) 農業における有機質肥料としての家畜排せつ物発生量等の可視化

肥料原料となり得る家畜ふん尿等の有機物質原量について可視化を行いました。



資料: 「家畜の排せつ物発生量推定プログラム」 環境野典・原田晴生、システム農学 (J, JASS), 13(1), 17-23, (1997) 及び「2020年農林業センサス」調査結果から算出

家畜排せつ物 (ふん尿) 年間発生量 (5畜種計)

加工分析資料の詳細は北海道農政事務所のホームページに掲載しています。

https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/gurafu_gaiyou/index.html

地方機関での仕事風景



有機農業に取り組む生産者との意見交換
@北海道農政事務所



出前授業「学生と考える
みどりの食料システム戦略」
@北海道農政事務所



高収益作物の生産・需要拡大
現地検討会の様子
@近畿農政局



麦・大豆に関連する支援策
（補助事業）の説明
@九州農政局

地方機関での仕事風景

災害対応



政務出張随行



生産者説明会



資料作成



打合せ



情報収集



補助事業関連視察



BUZZMAFF撮影



電話対応



データ整理



PRイベント



自治体説明会



オンライン会議





CONTENTS

本日本話しすること

01

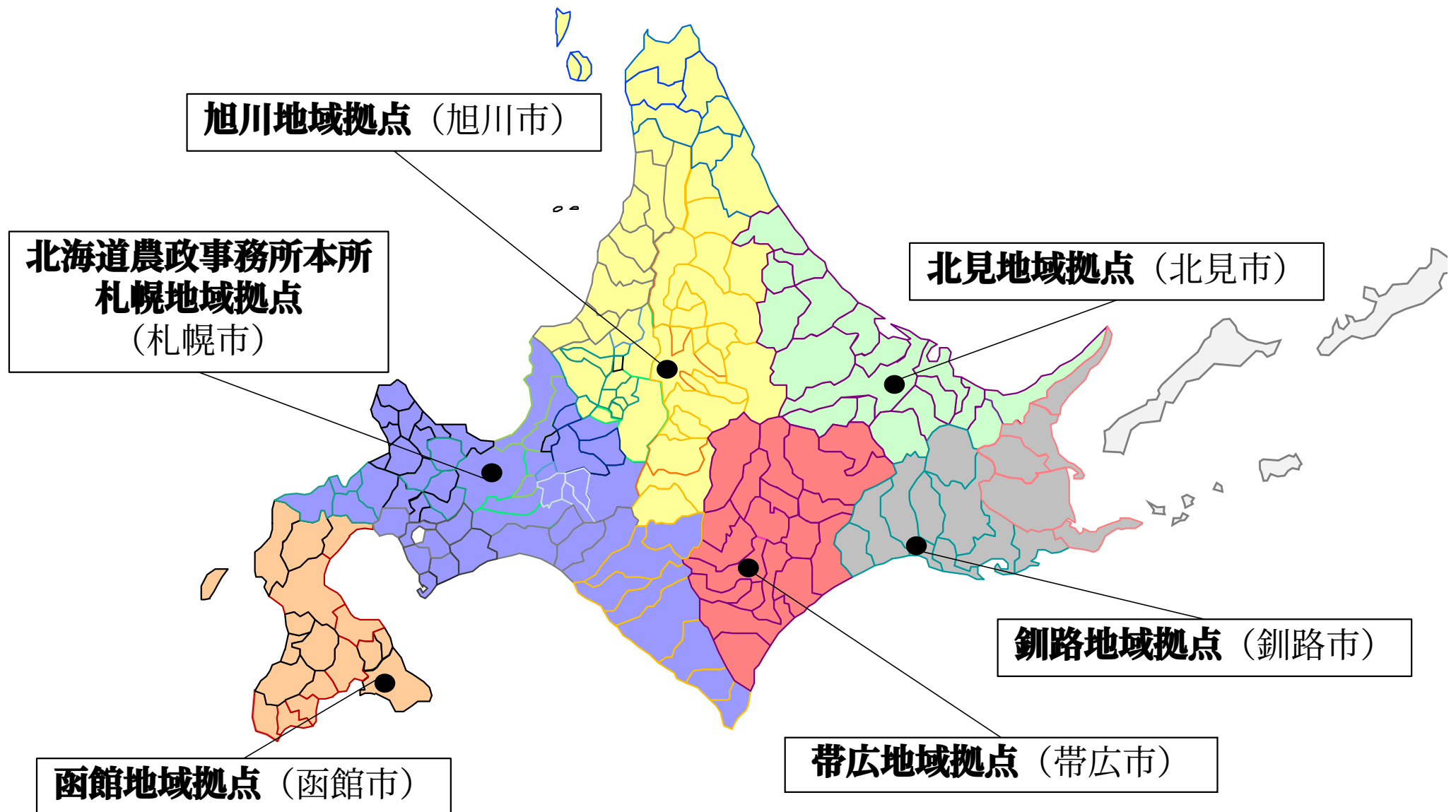
農林水産省のミッション

02

北海道農政事務所の職場環境

北海道農政事務所の組織

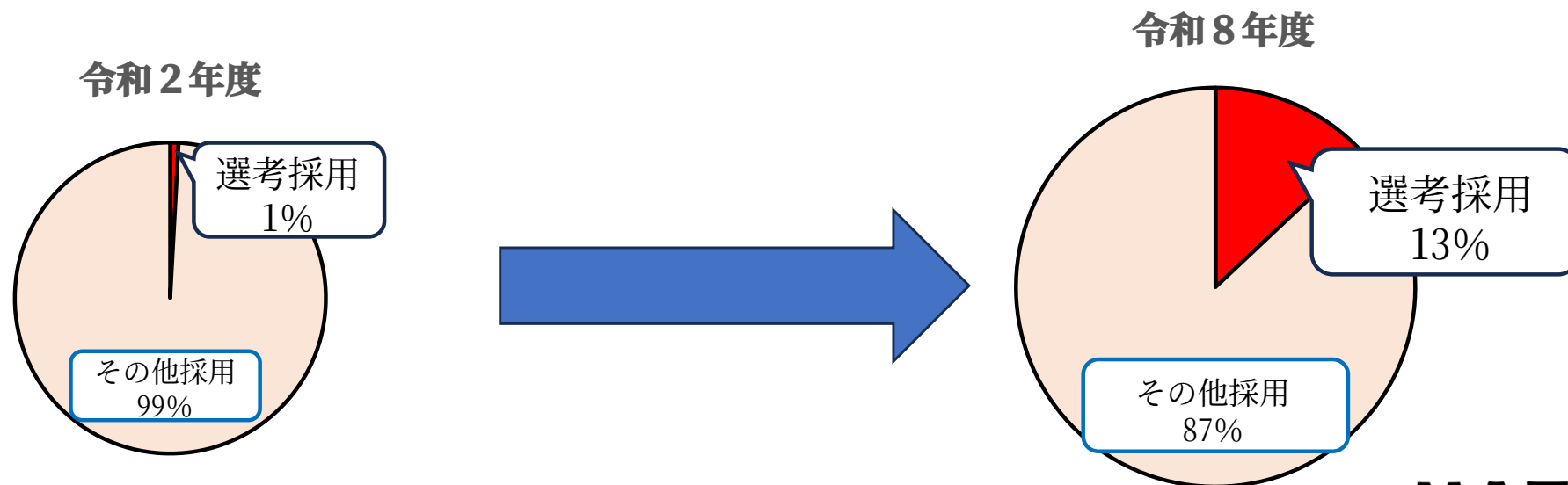
北海道農政事務所は、**本所（札幌市）**と**6箇所の地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）**で構成され、全道で**400名以上の職員**が働いています。



選考採用職員の割合（北海道農政事務所採用）

北海道農政事務所における**選考採用（経験者採用）**は令和2年度から始まりました。
年によって、採用者数のバラつきはあるものの、農政事務所全職員に占める**選考採用職員の割合は年々増加**しており、今後も増加することが見込まれます。

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
採用者数	4名	11名	6名	10名	10名	10名	7名
選考採用割合	1%	4%	6%	8%	10%	12%	13%

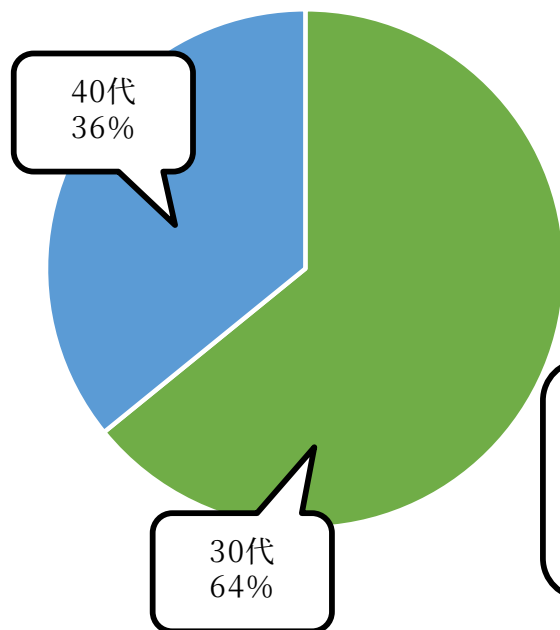


選考採用職員のデータ（北海道農政事務所採用）

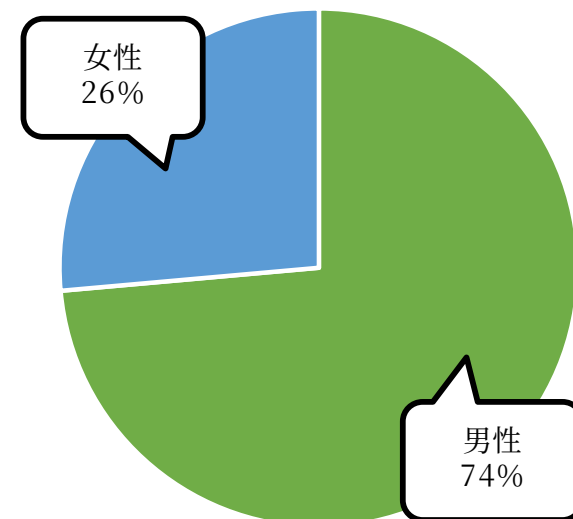
北海道農政事務所の選考採用職員の**採用時の年齢は30～40代が多く、男女比は3：1**です。

前職は、公務員を中心に幅広い業種から採用しています。

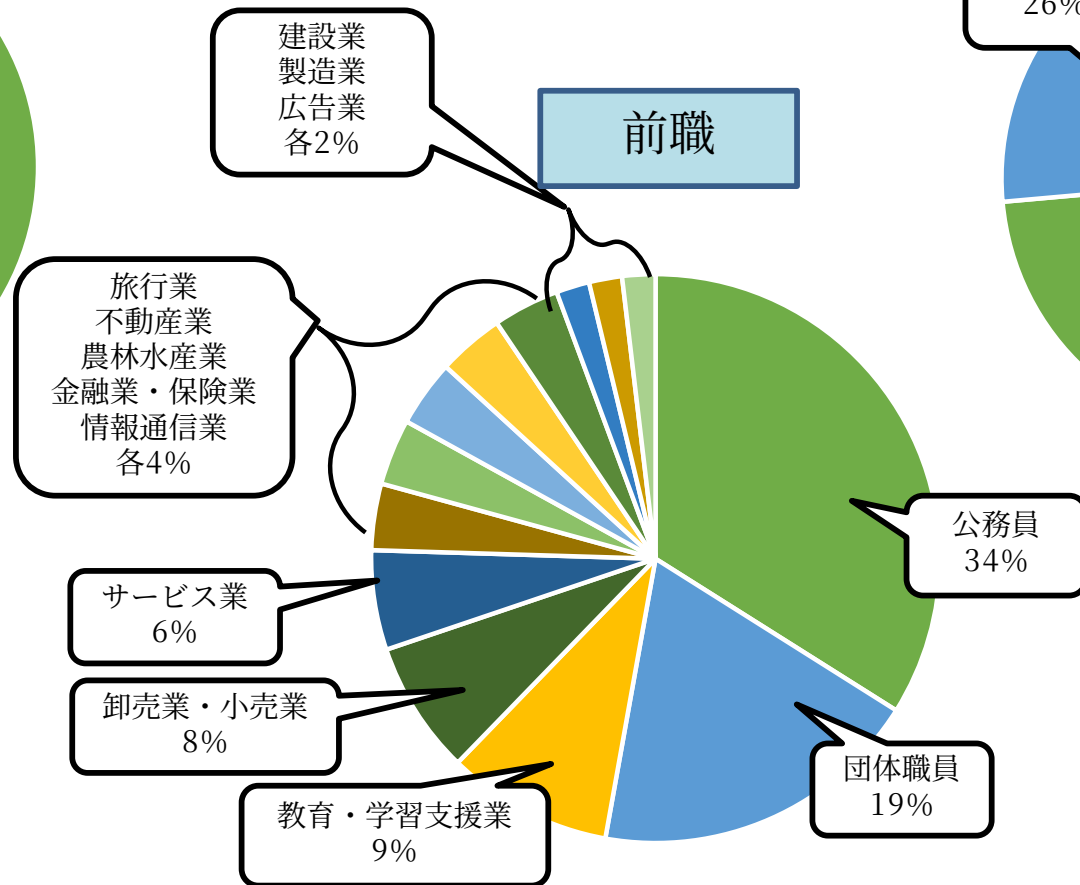
採用時の年齢



男女比

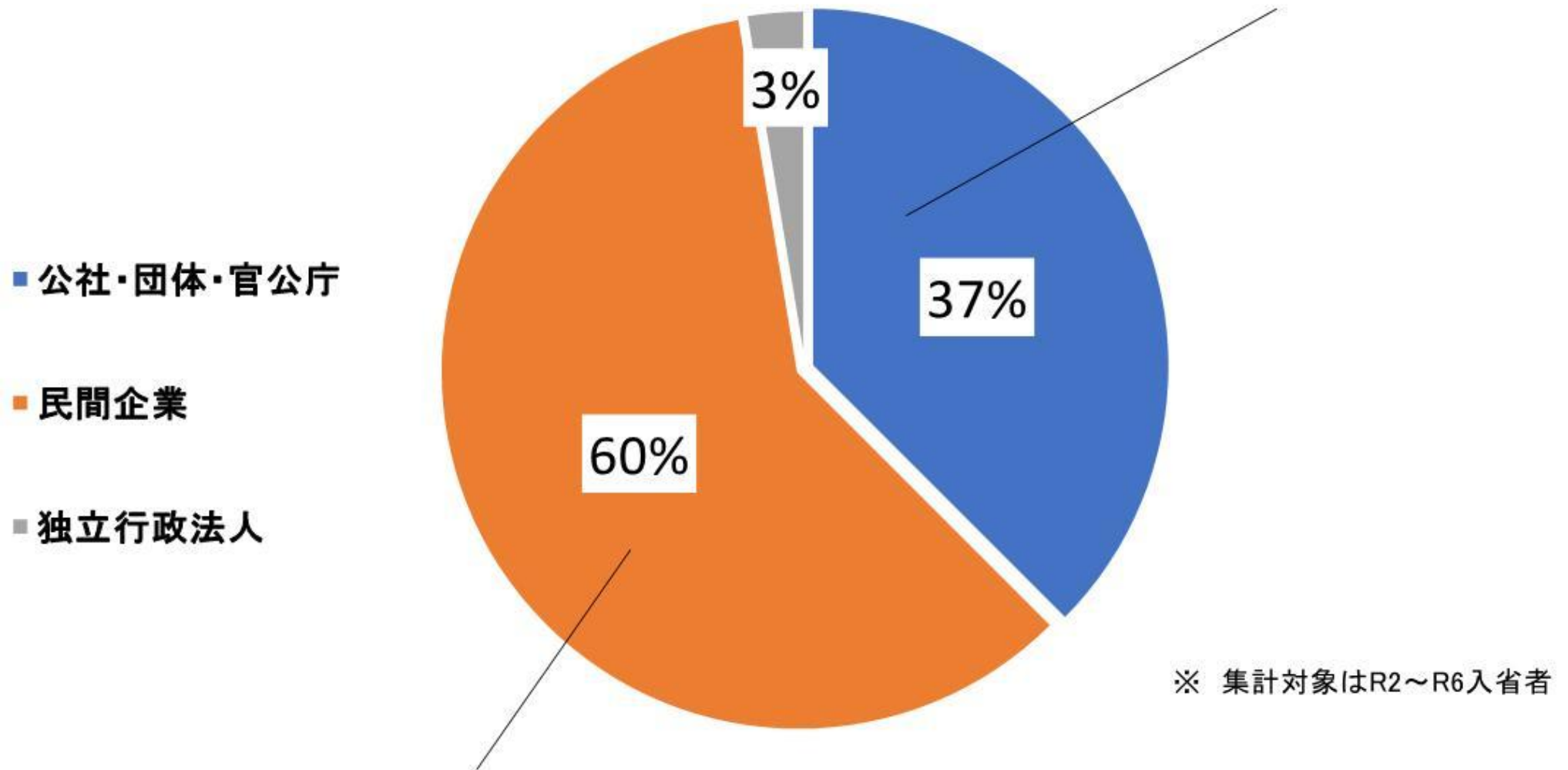


前職



選考採用職員のデータ（農林水産省採用：技術系）

他省庁、県庁、市役所・区役所・町役場、大学、研究機関など出身は多岐に渡ります！



食品メーカー、化学メーカー、コンサル、農協、IT企業、建設会社など業種は様々！

人材育成・研修について

新規採用者向け研修

入省1年目の職員を対象に4月～5月に開催します。
公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識等を学びます。

農村派遣研修

入省2年目に在職する職員を**農家の元に5日間派遣**し、**農林水産業の実情を経験**する研修です。

職員向け研修

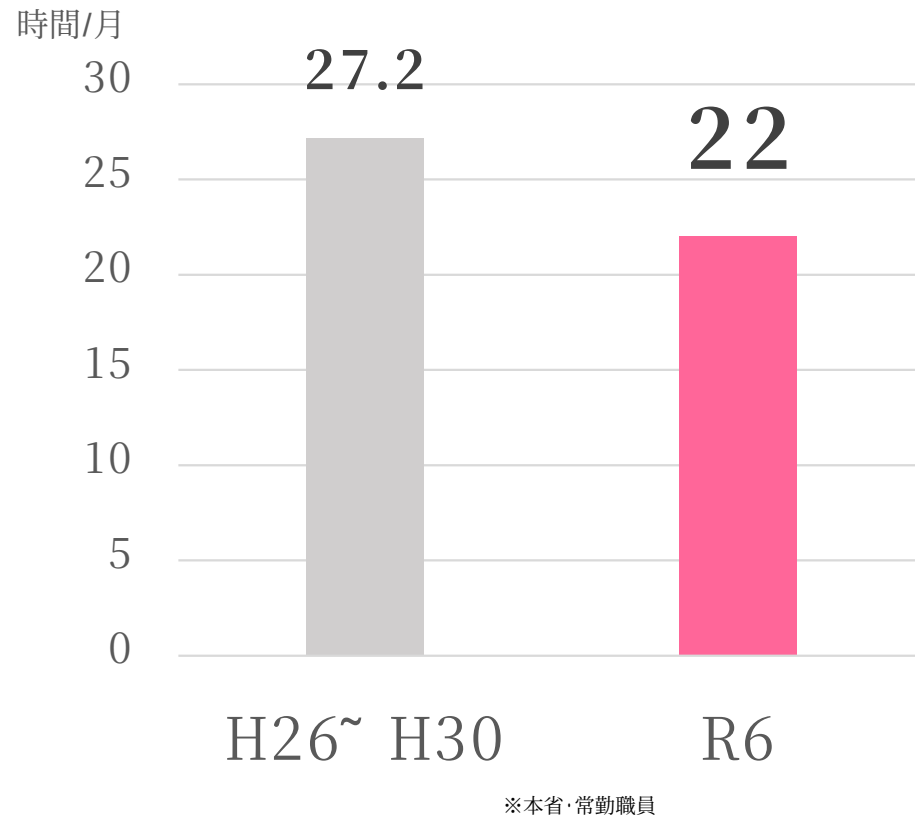
職員の**スキルアップ**や**知識習得のため、様々な研修や現地視察に参加可能**です。
対面研修のほか、オンライン研修も充実しています。

【研修例】情報セキュリティ研修、文書管理研修、ITパスポート研修、農業関連施設の視察、
担当業務に関する研修（畜産、食品安全、統計、会計、情報技術など）



農林水産省の職場環境について

○ 超過勤務時間は減少傾向



○ 多様な働き方～テレワーク等～

・フレックスタイム制度、早出遅出出勤

・テレワークも実施

・R6年度の平均年休取得日数は13.8日（本省）

○ メンター制の実施

○ 仕事と家庭の両立

・育児休業取得率（R5年度） 男性…84% 女性…100.8%

・保育所も併設
（農林水産省に勤めている職員の子どもが優先して入園可能）

・本省内に「マザーズサポートルーム」を設置
（育児中・妊娠中の職員が搾乳や休憩に利用できるスペース）

働き方改革キャラクター





■北海道農政事務所ホームページ

<https://www.maff.go.jp/hokkaido/index.html>



■北海道農政事務所採用ページ

<https://www.maff.go.jp/hokkaido/soumu/jinji/kantyouhoumon.html>



ありがとうございました。
ご不明点があれば、お気軽にお問合せ下さい。

■お問合せ先：北海道農政事務所総務課

○人事グループ

MAIL : saiyo@maff.go.jp TEL : 011-330-8804

